

令和6年度 江戸川区立大杉第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ よく考え すすんで学ぶ子</li> <li>○ 思いやりのある子</li> <li>○ 明るく 元気な子</li> </ul>	「学校大好き、先生大好き、友達大好き」 豊かな心、確かな学力、一人一人が輝く杉二の子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○「温かい心（敬愛・思いやり・感謝）」「確かな学力」「地域への貢献性」を育てる学校 ○よく聞き、見、話し合い、体験を生かして考える子。互いを尊重し、物や自然を大切に子。心身ともにたくましく、めあてをもってねばり強くやりとげる子。 ○児童・保護者・地域の人々、社会、自然とのかかわりの中で、様々な課題に気付く教職員。課題を解決するために、主体的に考え、新たな発想を生み出すことのできる教職員。考えや発想を実践に移すとともに、自己評価を適切に行い研鑽する教職員。
前年度までの本校の現状	成果	令和5年度江戸川区教育課題実践推進校として、研究課題「学力向上」に向けた取組を行った。週に1回のICT機器を活用しての学習時間である「杉二タイム」や家庭と連携して行う「杉二家庭学習キャンペーン」等を行うことで児童の学力を高めつつ、その成果を授業公開・説明会で発表した。	課題	学力向上の取組の成果が学力調査の結果として表れていないので、引き続き学力向上に向けた取組を行う必要がある。また、体力向上の取組をする必要があり、今年度は取組内容について検討を行い、実践し、児童の体力を向上させられるようにする。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	「誰一人取り残さないための学力向上に向けたアクションプラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「杉二タイム」「江戸川っ子studyweek」等の算数科学習時間の設定。</li> <li>・「杉二よむYOMUタイム」等、読解力を高めるための時間の設定。</li> <li>・年間6回の研究授業、校内研修を行うことによる教師の指導力の向上。</li> <li>・年間10回の若手研修を行い、若手教員の指導力・学校運営貢献力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸川区学力定着度調査8割達成児童70%以上。</li> <li>・東京ベシックドリル診断テスト8割達成児童70%以上。</li> <li>・年度末反省「校内研究・校内研修によって指導力は向上しましたか」への教員からの肯定的意見80パーセント以上。</li> </ul>	B		B	江戸川区学力定着度調査やベシックドリルに向けて、杉二タイム、江戸川っ子studyweek、補習等を行い、算数の学力向上のための取組を充実させている。また、「杉二よむYOMUタイム」を4、5、6年生で週に1回行い、読解力を高める取組をしている。	B	概ね子供たちは授業を楽しんでいる。杉二タイム「杉二よむYOMUタイム」は、学力向上に向けて良い取組みだと思える。	B	今年度から始まった「杉二よむYOMUタイム」は難しい内容の文章を読んだり、社会の状況を知ったりする機会になるのでよい学習だと考える。一方で江戸川区学力定着度調査は数値目標を達成できなかった。	B	「studyweek」で学習の状況を確認できるのはよい取組だと思う。子供の学習習慣の定着にもつながっている。生活状況も同時に確認できるとなおよい。	「studyweek」の時期を学期の初めに変更し、生活リズムの見直しも同時に行えるような内容に改善していく。
	〇読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回の朝読書の実施</li> <li>・多読賞の設定（3年生～6年生1万ページ）</li> <li>・ヒプリオバトルの全校実施</li> <li>・調べる学習コンクールへの参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多読賞の受賞者100名以上</li> <li>・校内アンケート「読書が好きです」への肯定的意見が全校児童の70%以上。</li> <li>・1学期にテーマを設定</li> </ul>	B		B	2回の研究授業を行い、教材研究を充実させたり、指導講評を受けたりすることで教師の指導力向上に努めている。また、若手研の充実を図り、毎週相互の授業参観を行い、ミニ研修会を行っている。年度末のアンケート結果で指導力向上への肯定的意見が80%以上を目指す。	B	教員は概ね子供たちが分かりやすいよう日々の授業を工夫していると思う。グループ学習では、児童が主体的に学習に取り組んでいる姿がとて良かった。	A	6回の研究授業を通して、国語への理解を深めることができた。児童の「話す・聞く」「書く」かも高まり、全国学力・学習状況調査での学力向上という結果にもつながった。	B	学校公開の授業内容は興味を引くものであり、先生方が工夫して学力向上に向けて取り組んでいることが伝わった。	6回の研究授業は継続して行う。教員の指導力向上と共に児童の学力が向上するよう研究を引き続き行う。
	〇読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回の朝読書の実施</li> <li>・多読賞の設定（3年生～6年生1万ページ）</li> <li>・ヒプリオバトルの全校実施</li> <li>・調べる学習コンクールへの参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多読賞の受賞者100名以上</li> <li>・校内アンケート「読書が好きです」への肯定的意見が全校児童の70%以上。</li> <li>・1学期にテーマを設定</li> </ul>	B		B	週に2回の朝読書を実施している。また、児童の読書へ意欲を高めるために、保護者による読み聞かせを行っている。2学期にも読書週間を行い、より一層、読書への意欲を高めたい。	B	朝読書や多読賞の取り組みは効果的だと思うが、それが直接子供たちの本に対する興味・関心につながっているかは疑問である。	B	朝読書、保護者への読み聞かせに加え、多読賞の表彰や読書週間等の取組が充実しているため児童の読書への関心は高まっている。取組を継続していきたい。	B	多読賞に向けて、家庭でも読書をする姿が見られた。図書ボランティアとして子供に読み聞かせをする機会がよかった。	多読賞を受賞できる児童がこれまで以上に増えるように、児童への声掛けをより一層、行っていく。
体力の向上	〇個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果を分析し、苦手領域を把握してのコーディネーショントレーニングの実施。</li> <li>・年間30回の朝マラソンの実施及び校内マラソン大会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストのすべての領域で東京都の平均を超える。</li> </ul>	B		B	体力テストの結果、男女、6学年、8領域、それぞれ96項目中44項目で全国平均を超えることができた。今後も、体育の授業において個の運動技能に応じた場を設定し運動させることや、外遊びを奨励することで運動への愛好的な態度を高め、体力を向上させていきたい。	A	中休みや昼休みは広い校庭で元気に遊ぶことができています。朝マラソンなどは、運動する良い機会になっていると思う。	A	体力テストの結果も昨年度に比べ、全国平均を超えるものが多かった。また、体力テストの分析や対応について学校便り等で周知することで、保護者とも今後の体力向上に向けた情報共有ができた。	A	子どもたちは体育の授業を楽しみにしている。マラソンカードにも熱心に取り組んでいた。持久走記録会を土手に戻してもよいのではないかと。	体力向上への意欲を高め、運動することの楽しさを実感できるよう、体育的活動の充実を推進していく。
	〇なわ跳びチャレンジを通しての児童の基礎体力向上に向けた取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回のなわ跳びウィークを設定</li> <li>・全学年共通のなわ跳びカードで個に応じた取り組みの実施・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとび名人達成項目1つ以上の児童が全校児童の30%以上。</li> </ul>	B		B	なわとびチャレンジウィークを1学期、2学期に1回行った、多くの児童がなわ跳びに取り組む姿が見られている。体育の時間にも取り組み、なわとび名人の達成項目が増えるように支援する。	B	子供たちは縄跳びを楽しんで取り組むことができていますので、運動する良い機会になっていると思う。	B	学校共通のなわとびカードを活用することで、各学年で系統的になわとびの学習を行うことができた。なわとび集会によって高学年が低学年児童に教える機会も設定できた。	B	なわとび集会でのデモンストレーションがすばらしかったので学校公開で行ってほしい。	今年度から江戸川っ子なわ跳びウィークの実践をした。本校の実態に応じたものに改善していきたい。
	〇多様な運動経験をさせ、児童の運動への愛好的な態度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カヌー教室の実施</li> <li>・スケート教室の実施</li> <li>・ポッチャ体験の実施</li> <li>・フリスポート選手を招いてのスポーツ体験授業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内アンケート「運動は好きですか」への肯定的意見90%以上。</li> </ul>	B		A	体力テストのアンケート「体育の授業は楽しいと思えますか」の結果、全学年で肯定的な回答をした児童が90%を超えた。また、カヌー等の体験活動を行い、児童の運動への関心を高める取組を行った。	A	多様な運動経験を積むことで、運動への愛好的な態度を育てていると思う。	A	カヌー教室・スケート教室等を体験することで運動への関心を高めることができた。「運動は好きですか」のアンケート結果も数値目標を達成させることができた。	A	スケートができるようになったと「スケート教室」の後に子供が嬉しそうに話してくれた、今後もスケート教室を行ってほしい。	スケート教室は引き続き行う予定である。来年度は、プロ野球選手を招聘しての野球教室を行うことを予定している。
実現に向けた教育の推進	〇地域や外部団体とかわる教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所の方と未来の江戸川区について考える活動</li> <li>・ふれあいウェンズデイの実施</li> <li>・見守り隊の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方や未来の江戸川区について考えることで、生まれ育った地域への愛着心を育てる。</li> <li>・地域や外部団体とかわる活動を年間2回以上行う。</li> </ul>	A		A	ふれあいウェンズデーは月に1回、見守り隊は月に3回程度行っている。また、子供未来館の方をゲストティーチャーとして招きやゴトフを作成する等の活動を行い、外部団体と関わりながら地域への愛着を高めている。中央地域祭りや盆踊り、町会連合運動会に参加し地域との交流を深めることができた。	A	ふれあいウェンズデーや見守り隊など、地域や外部団体と関わる教育活動を推進することができている。	A	「見守り隊」「ふれあいウェンズデー」「江戸川区企画課の授業」に加え、「ガイドヘルプ体験」や「講場見学」等、地域や外部団体と関わる教育活動を推進することができた。	A	中央地域祭りや区民祭りと共に、盆踊りやどんと焼きにも参加する児童が増えている。ホームページでも様子がみられるので地域との関わりの様子がよく伝わる。	今後も積極的に地域・外部団体と関わり、教育活動を充実させていく。来年度は本校OB等をゲストティーチャーとして招聘する予定である。
	〇エンカレッジルームの活用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンカレッジルームの保護者への理解啓発</li> <li>・エンカレッジルームと教室をつなぐオンライン授業</li> <li>・対象者と担任とのコミュニケーションの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者にエンカレッジルーム登校を推進することで、不登校0を目指す。</li> </ul>	A		A	エンカレッジルームについて保護者への理解・啓発を行うことで、現在9名程度の児童が毎日利用している。今後もエンカレッジルームの利用を推進することで、不登校児童を0にできるような取組を行う。	C	エンカレッジルームの役割について、保護者や地域に情報を提供してほしい。	A	「ワンステップルーム」（校内別室指導教室）での活動を通して、元気に学校生活を送ることができている。今後は、1時間でも多く、教室へ行く機会を増やせるよう工夫して取り組んでいく。	B	保護者会や個人面談等でエンカレッジルーム・ワンステップルームの紹介があった。それぞれの児童に応じた対応を丁寧これまで通り行ってほしい。	エンカレッジルームやワンステップルームでの活動を推進し、児童がそれぞれの課題を解決できるように支援していく。
	〇副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回以上の復籍交流の実施、及び復籍交流の情報発信。</li> </ul>	B		B	2年3組・5年2組の児童が鹿本学年に通っている児童との交流を行う予定である。今年度の1回目は10月を予定している。その際にはホームページ等で情報を発信する予定である。	B	副籍交流は、人間同士の相互理解や思いやりの気持ちを大切にする人間形成につながっていると思う。	B	2年、5年の児童が鹿本学園の児童との交流を2回行った。ホームページで保護者への周知を行った。	B	様々な人がいるということとそれを認め合って生きていくということを学んでほしい。	鹿本学園との連携を今後も継続し、小学校生活6年間を通しての交流ができるようにしていく。

令和6年度 江戸川区立大杉第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ よく考え すすんで学ぶ子</li> <li>○ 思いやりのある子</li> <li>○ 明るく 元気な子</li> </ul>	「学校大好き、先生大好き、友達大好き」 豊かな心、確かな学力、一人一人が輝く杉二の子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○「温かい心（敬愛・思いやり・感謝）」「確かな学力」「地域への貢献性」を育てる学校 ○よく聞き、見、話し合い、体験を生かして考える子。互いを尊重し、物や自然を大切にす子。心身ともにたくましく、めあてをもってねばり強くやりとげる子。 ○児童・保護者・地域の人々、社会、自然とのかかわりの中で、様々な課題に気付く教職員。課題を解決するために、主体的に考え、新たな発想を生み出すことのできる教職員。考えや発想を実践に移すとともに、自己評価を適切に行い研鑽する教職員。
前年度までの本校の現状	成果	令和5年度江戸川区教育課題実践推進校として、研究課題「学力向上」に向けた取組を行った。週に1回のICT機器を活用しての学習時間である「杉二タイム」や家庭と連携して行う「杉二家庭学習キャンペーン」等を行うことで児童の学力を高めつつ、その成果を授業公開・説明会で発表した。	課題	学力向上の取組の成果が学力調査の結果として表れていないので、引き続き学力向上に向けた取組を行う必要がある。また、体力向上の取組をする必要があり、今年度は取組内容について検討を行い、実践し、児童の体力を向上させられるようにする。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充実</li> <li>・長期休業前に生活指導副代表委員会が主体となって行うなど、啓発活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間6回のなかよし班活動の実施。</li> <li>・年間10回程度の児童集会の実施。</li> </ul>	B		B	1学期中になかよし班活動を2回行った。また、児童集会も6回程度行い、取り組み内容を充実させている。また、安全指導の動画を代表委員会が主体となって作成し、豊かな心の育成を目指している。	B	道徳の学習や異学年交流を通して、豊かな心の育成に努めてほしい。	B	なかよし班活動は年間6回行った。また、児童集会は15回程度行い、昨年よりも活動を充実させることができた。代表委員の活動は「ユニセフ」「あいさつ運動」をはじめとして、児童が主体的に行うことができた。	B	道徳地区公開講座では様々な工夫がされた授業を各クラスで見ることができた。なかよし班活動や集会も子供たちは楽しみにしている。今後とも続けてほしい。	道徳授業の研修を行うことで授業の充実をこれまで以上に図る。また、授業内での異学年交流の場をこれまで以上に増やしていく。
	○hyper-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・hyper-QUの児童の実態把握に基づいた指導の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・hyper-QUの実施結果、学校生活満足群児童40%以上。</li> </ul>	A		A	hyper-QUの実施結果、学校生活満足群児童は51%であった。引き続き、学校生活満足群の児童が増えるように教育活動を行う。また、12月に行う個人面談で結果について保護者に説明を行う。			A	hyper-QUの実施結果、学校生活満足群児童は51%であった。数値目標は達成することができた。12月にはそれぞれの結果を個人面談で伝えることができた。			来年度はL-Gateを活用して児童の実態を把握し個に応じた対応を行う。
	○教育相談の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーとの連携強化</li> <li>・スクールカウンセラーによる5年生全員面談</li> <li>・担任による全員面談の推奨</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SCと関連する児童の情報共有を確実に実施。</li> <li>・年間3回のいじめアンケートの実施</li> </ul>	B		A	1学期中にスクールカウンセラーによる、5年生全員面談を行った。また、スクールカウンセラー来校日には情報共有を確実に実施している。いじめアンケートを行い、児童からの聞き取りを丁寧に行った。	A	スクールカウンセラーの「いじめアンケート」は、トラブル解消やいじめ防止につながっている。スクールカウンセラーの存在も大きく今後も継続してほしい。	A	SCによる5年生による全員面談及び、「いじめアンケート」の結果をもとにした児童への面談や対応等を行い、教育相談の取組を充実させた。また、「いじめ対策委員会」で情報共有を行い、組織的な対応もできた。	A	校長・副校長・生活指導主任・養護教諭・SCを中心に子供たちに寄り添い、話を聞いていると感じた。	今年度の取組を継続して行う。また、いじめ等の教育上の課題については組織的に対応し、児童が相談しやすい環境づくりに努める。
学校（園）の地域社会に開かれたの実現	○学校（園）ホームページの充実等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページの更新</li> <li>・学校要覧の内容変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日1回のホームページの更新の実施。</li> <li>・6月中の学校要覧の内容の変更の実施。</li> </ul>	B		B	1日に1回のホームページの更新を実施している。学校要覧の内容は変更し、今後、関係者に配布する予定である	A	ホームページを見て、学校の様々な情報を入手している。今後も日々の活動や情報を随時提供してほしい。学校公開は、子供たちの様子を知る上で良い機会になっている。	A	1日1回のホームページ更新を概ね行うことができた。また、学校要覧の内容もこれまで以上に本校の特色を伝えられるように改善した。学校からの配付物を「tetoru」による配信に変更し、ペーパーレス化も推進することができた。	A	「学校便り」「学年便り」が配信になることで、学校からの予定や文章が確実に保護者に届くようになった。環境への配慮もされたよい取り組みだと思う。	ホームページでの情報公開と共にtetoruによる配信もより一層充実させていく。PTAの文章等も配信に変えていけるようにする。
	○学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回行う、学校評議員会での学校関係者評価の実施。</li> </ul>	B		B	2学期に、児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査を実施する予定である。	A	学校関係者評価は、保護者や地域の方々の意見を集約して、教育活動に生かすことができる良い機会になっていると思う。	A	「forms」を活用してのアンケートを実施することで、より多くの保護者からアンケートを回収することができ、学校関係者評価を充実させることができた。	A	アンケートが手書きでなくなったので、簡単に答えることができた。様々なアンケートをタブレットでできるようにしてほしい。	引き続き「forms」を活用してのアンケートを実施する。また、質問内容に検討を加え、保護者の要望を把握しやすくする。
教育の展開	○環境整備とボランティア活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花いっぱい活動の実施</li> <li>・ボランティア清掃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の主体的な活動</li> </ul>	A		A	2年生が花いっぱい運動を学校公開で保護者とともに実施した。また、ボランティア清掃は全校で実施する。2学期中に地域の各公園で清掃活動を行う予定である。	B	花いっぱい活動やボランティア清掃を精力的に行い、より良い地域に向けて貢献しようとする気持ちを育てていってほしい。	A	全学年によるボランティア清掃、花いっぱい運動、地域の公園での植樹等をきめ、「グリーンプラン推進校」として、環境教育を充実させた。	A	「グリーンプラン」を推進している様子がよく見られた。学校公開では保護者と共に活動をすることができていた。	「令和7年度グリーンプラン推進校」として、現在の取組を実施しつつ、より良くしていく。
	○英語と親しむ機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTと英語講師で行う外国語及び外国語活動の充実</li> <li>・ALTと担任で行う、英語と慣れ親しむ時間の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内アンケート「英語は好きですか」への肯定的意見80%以上。</li> </ul>	A		A	ALTと英語講師で授業を行うことで、外国語・外国語活動の授業を充実したものにできている。また、低学年にもALTと触れあう授業時間を設定することで、学校全体で英語と親しむ機会を充実させている。	A	子供たちは、外国語の授業を楽しみながら、英語に親しむことができている。小学生からこのような機械があることは、よいことだと思う。	A	1年生・2年生とALTが関わる時間を設定したり、イングリッシュキャラバンを行うことで、児童が英語と親しむ時間を設定することができた。	A	ALTや外国人講師との関わりを推進していることがよく分かった。学習発表会でも児童が外国語の歌をすらすら歌うので驚いた。	外国語専科を中心に英語の授業を今後も充実させる。また、外国の方との関わりを増やせるように努める。
	○働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回の定時退勤日の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残業時間50時間以下の教員達成率100%</li> </ul>	B		A	現在、月に1回の定時退勤日を設定し、教員の残業時間を減らす取り組みをしている。残業時間が50時間以下の教員は84パーセントである。			A	働き方改革を推進することで、残業時間が50時間を超えなかった職員は12月は89%、1月は97%だった。			定時退勤日や教科担任制の導入や会議の精選をこれまで以上に進めることで働き方改革を推進していく。